

令和元年 12 月 9 日

神戸市母子保健事業に参加された市民の皆様へ

神戸市こども家庭局こども育成部家庭支援課長

熱性けいれんのリスク因子および予後に関する分析

神戸市は、神戸大学小児科と共同で下記の研究を実施するため、乳幼児健診等の母子保健事業に関する既存情報を匿名化し、同大学へ提供いたします。以下に研究の概要を公開いたします。本研究は、母子保健事業の向上を目的として実施するものであり、何卒ご理解いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

1. 研究課題

熱性けいれんのリスク因子および予後に関する分析

2. 研究の目的

熱性けいれんは、主に生後 6～60 か月までの乳幼児期に起こる、通常 38℃以上の発熱にともなう発作性疾患で、現在、家族歴が最も確立しているリスク因子だとされています。早産、低出生体重、発達の遅れ等との関連についても報告されていますが、研究結果は未だ一定していません。

また、熱性けいれんの長期予後に関しては、熱性けいれんの有無で知能指数の差がないという報告がある一方で、熱性けいれんの既往は、てんかんの発症頻度と関連するという報告もあります。

そのため本研究では、匿名化した乳幼児健診等の母子保健事業に関する既存情報を用いて、3 歳までに熱性けいれんを発症した子どもの、発症に関連する周産期・乳幼児期のリスク因子を明らかにすることを目的としています。

3. 研究の対象

以下の要件をすべて満たす方を研究対象とします。

- ① 2007 年 4 月から 2016 年 3 月の間に出生した児とその母親。
- ② 神戸市の母子保健事業（妊娠届出、新生児訪問事業、4 か月児健診、9 か月児健診、1 歳 6 か月児健診、3 歳児健診のいずれか）で情報を収集できた児とその保護者。

4. 研究の方法

3 歳児健診までの熱性けいれんの有無によって、周産期情報、乳幼児期の発達等を比較し、熱性けいれん発症のリスク因子及び予後を検討します。

神戸市が個人情報を削除した匿名化データを作成し、データの統計学的解析は神戸大学小児科で行います。

5. 個人情報の保護

氏名等の個人を直接特定しうる情報は、分析用データには含まれないため、個人情報を分析に用いることはありません。また、研究結果は対象集団の統計データとして報告されるため、研究成果を学会又は学術雑誌で発表する場合も、個人情報が公開されることはありません。

6. 研究に用いる情報の種類

神戸市の母子保健事業に関する既存情報のみを使用します。

- ① 妊娠届出書の記載内容
- ② 新生児訪問指導票の内容
- ③ 乳幼児健診（4か月児、9か月児、1歳6か月児、3歳児）の間診票及び健診票の記載内容

7. 予定研究期間

倫理審査委員会承認日から2021年3月31日まで。

8. 研究組織

（1）研究実施責任者

神戸市こども家庭局こども育成部家庭支援課（医務担当課長 三品浩基）

（2）共同研究者

神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野（教授 飯島一誠）

9. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、情報が本研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象から除外することができます。その場合でも神戸市母子保健事業に関する不利益が生じることはありません。（ただし、分析による統計データがすでに公表されている場合等、除外に応じられないことがあります。）

神戸市こども家庭局こども育成部家庭支援課母子保健係

住所 神戸市中央区加納町 6-5-1

電話 078-322-6513